

ジャンル別の、扱いやすい単元構成です。

第一部

一 小説の言葉・詩の言葉
— 文学国語へのいざない

- 夜中の汽笛について、あるいは物語の効用について……………村上春樹 12
- 詩はいつでも近いところにある……………峰飼耳 16

二 小説（一）

- 山月記……………中島敦 22
- 少年という名前のメカ……………松田青子 35

三 詩歌

- 今日……………谷川俊太郎 46
- わたしを束ねないで……………新川和江 48
- 帰途……………田村隆一 51
- 木に花咲き——短歌十五首……………55
- 学びを広げる 短歌を創作する（書くこと）……………59
- 麦わら帽子のへこみ……………穂村弘

四 小説（二）

- ひよこの眼……………山田詠美 66
- 神様……………川上弘美 82
- 学びを広げる 書評（読むこと）……………82
- 今はもうないもの光……………堀江敏幸 92

五 翻案

- ありとぎりぎりす……………佐野洋子 98
- （参考）セミとアリ……………102
- 学びを広げる 翻案作品をつくる（書くこと）……………104
- 娵捨……………大和物語 104

六 戯曲の言葉

- 戯曲の中の「対話」……………対談 井上ひさし／平田オリザ 110
- （参考）平田オリザ『東京ノート』より……………117
- 戯曲 書く女（抄）……………永井愛 119
- 学びを広げる 戯曲（読むこと）……………119

七 小説（三）

- こころ……………夏目漱石 138
- 捨てない女……………多和田葉子 174
- 学びを広げる 小説の表現／映画の表現（読むこと）……………174

八 評論

- 文学の仕事……………加藤周一 184
- お砂糖とスパイスと爆発的な何か……………北村紗衣 193
- 小説はどう読めばいいのか？……………阿部公彦 203
- 太宰治『斜陽』の語り口……………203
- 学びを広げる 批評（読むこと）……………203

コミュニケーション教育にもつながる「戯曲」の言葉の学びについて、単元を設けました。

イソップ物語の翻案作品から、時代やジャンルをまたいだ作品同士のつながりを学びます。

「物語」が生まれる場面を描写した村上春樹の短い文章から、文学の世界へ導入します。

第二部

読むこと・書くこと・語ること
—文学国語の広がり

本を読むと路に迷う……………朝吹真理子 214
想像し物語ること……………大江健三郎 218

二 小説（一）

ベル・エポック……………安部公房 240
糸山秋子 230

三 詩歌

永訣の朝……………宮沢賢治 250
ギリシア的抒情詩……………西脇順三郎 254
のちのおもひに……………立原道造 256
渡り鳥——俳句十五句……………260

四 文学の共同制作

連詩の愉しみ……………大岡信 270
ヤングの連句——半歌仙『赤城おろし』の巻……………宇咲冬男 279

五 小説（二）

靴の話……………大岡昇平 288
夏の花……………原民喜 299

六 翻訳の言葉

『雪国』の謎——夜の底とは何か……………山本史郎 328
涙の贈り物……………レベッカ・ブラウン／柴田元幸訳 336

七 小説（三）

檸檬……………梶井基次郎 350
舞姫……………森鷗外 359

八 評論

陰翳礼讃……………谷崎潤一郎 396
無常ということ……………小林秀雄 402

文学に関連する**評論教材**を取り上げた単元を、第一部・第二部両方に用意しています。

第二部の導入には、読書から始まる**世界の「広がり」**を感じられる教材を配置しています。

単元扉では教材一覧のほか、**学習のねらい**を明示しています。

教科書の凡例を提示しています。

二 小説（一）



山月記 少年という名前のメカ

中島敦
松田青子

学びを広げる
小説を書き換える
書くこと

文学を読むために
一語り手

- 会話と地の文の関係に着目して、人物像を把握する
- 小説の寓意について考える
- 主人公の設定を変え、小説を書き換える



関連ウェブページ・動画などの参照リンクにアクセスできます。

この教科書を使うために

- 全体の構成
近現代の文学作品、文学評論を精選し、二部立てで、各部八つの単元に構成した。巻末に資料編を付した。
- 単元扉
扱う教材名と単元の学習目標を掲げた。
- 各教材には、次の項目を設けた。
 - ◆ 脚注 教材文中に1、2……の番号をつけ、固有名詞や難解な語句などを解説した。
 - ◆ 脚問 内容理解の手がかりになる箇所①②……の番号をつけて、簡単な問いとして問①のように掲げた。
 - ◆ 語句 *をつけ、意味や用法に注意して身につけておきたい語句を抜き出して見開きごとに示した。
 - ◆ 課題A 文章の内容を理解し、考え、言語活動への手がかりとなる問いを設けた。
 - ◆ 課題B 理解した文章の内容をふまえ、協働的、主体的にその理解をより深めるための学習課題を、問いや作業の示唆の形で盛り込んだ。
- ◆ 漢字 常用漢字の習得のために、教材文中の注意すべき漢字を選び、まとめて掲載した。

単元の末には、次の項目を設けた。

- 学びを広げる
第一単元を除く各単元に、書く、読む、の単元の目標に対応して、言葉の学びを協働的、主体的に深め、広げる言語活動を設定した。
- ◆ 単元の振り返り
単元での学習を振り返って確認し、次の学習に生かしていくための単元の振り返りの観点を示した。
- ◆ コラム 第一・第八単元を除く各単元に、コラムを設けた。
文学を読むために 文学を多角的に読解するための視点や概念を解説した。
- 広がる読書 この教科書で取りあげていない文学ジャンルを、具体的な作品名を挙げながら紹介した。
- 参照ページ・行
課題A・課題Bなどで教材本文を引用する場合や、参照すべき箇所を示す場合、引用文の下に(31・10)のように示した。上の数字がページ、下の数字が行を示す。
- 二次元コード
適宜、二次元コードを付し、リンク先に学習の参考となる情報を掲載した。なお、二次元コードのページには、以下のURLからもアクセスできる。
<https://bqr.sanseido-publico.jp/05-saisenbungaku/comments>



教材本文のページは**シンプルなレイアウト**で、文章の読みに集中しやすくなっています。

山月記

中島敦

1 隴西の李徴は博学才穎、2 天宝の末年、若くして名を虎榜に連ね、ついで江南尉に補せられたが、性、3 狷介、自ら恃むところはすこぶる厚く、4 賤吏に甘んずるを潔しとしなかった。いくばくもなく官を退いた後は、5 故山、6 號略に帰臥し、人と交わりを絶つて、ひたすら詩作にふけた。7 下吏となつて長く膝を俗悪な大官の前に屈するよりは、8 詩家としての名を死後百年に遺そうとしたのである。しかし、9 文名は容易に揚がらず、10 生活は日を逐うて苦しくなる。11 李徴はようやく焦躁にかられてきた。この頃からその容貌も峭刻となり、肉落ち骨秀で、12 眼光のみいたずらに炯々として、かつて進士に登第した頃の豊頬の美少年のおもかげは、どこに求めようもない。13 数年の後、貧窮に堪えず、14 妻子の衣食のために節を屈して、15 再び東へ赴き、16 一地方官吏の職を奉ずることになった。一方、これは、己の詩業に半ば絶望したためでもある。かつての同輩は既にはるか高位に進み、彼が昔、鈍物

- 1 隴西 中国甘肅省東南部の地名。
- 2 才穎 才能が抜きん出ている様子。
- 3 天宝 唐の玄宗皇帝時代の年号(七四二～七五六)。
- 4 虎榜 官吏登用試験(科挙)合格者(進士)の姓名を掲げる板。
- 5 江南尉 江南は長江下流の一带。ここでは浙江省辺りをいう。「尉」は昔中国で軍事や警察などのことを扱った官。
- 6 狷介 固く自分の意志を守り妥協しない様子。
- 7 賤吏 身分の低い官吏。
- 8 故山 生まれ故郷の地。
- 9 號略 河南省西部の靈宝市の地。
- 10 帰臥 官を辞して故郷に帰り、静かに暮らすこと。
- 11 峭刻 厳しく、険しい様子。
- 12 登第 合格すること。



として歯牙にもかけなかったその連中の下命を拜さねばならぬことが、往年の偶才李徴の自尊心をいかに傷つけたかは、想像に難くない。彼は快々として樂しまず、狂悖の性はいよいよ抑え難くなった。一年の後、公用で旅に出、汝水のほとりに宿った時、ついに発狂した。ある夜半、急に顔色を変えて寢床から起き上がると、何かわけのわからぬことを叫びつつそのまま下に飛び下りて、闇の中へ駆け出した。彼は二度と戻って来なかった。付近の山野を搜索しても、なんの手がかりもない。その後李徴がどうなったかを知る者は、誰もなかった。

翌年、監察御史、陳郡の袁倓という者、勅命を奉じて嶺南に使いし、途に商於の地に宿った。次の朝いまだ暗いうちに出発しようとしたところ、駅吏が言うことに、これから先の道に人食い虎が出るゆえ、旅人は白昼でなければ、通れない。今はまだ朝が早いから、いまま少し待たれたがよろしいでしょう。袁倓は、しかし、供回りの多勢な

- 13 偶才 才能の優れた人。
 - 14 快々 不満が募る様子。
 - 15 狂悖 異常なまでに道理に背くこと。
 - 16 汝水 河南省より発し、淮河に注ぐ川。
 - 17 監察御史 各地を巡回し、役人の取り締まりに当たった官。
 - 18 陳郡 河南省東部にあった郡。
 - 19 嶺南 広東省・広西壮族自治區の一带。
 - 20 商於 河南省浙川県の地名。
 - 21 駅吏 宿場の役人。
- * 語句
 甘んずる 潔しとしない
 焦躁にかられる 節を屈する
 歯牙にもかけない 自尊心

よって一人前の詩人面をしたのではない。作の巧拙は知らず、とにかく、²⁸産を破り心を狂わせてまで自分が生涯それに執着したところのものを、一部なりとも後代に伝えたいは、死んでも死にきれないのだ。

袁俊は部下に命じ、筆を執って叢中の声にしたがって書き取らせた。李徴の声は叢の中から朗々と響いた。長短およそ三十篇、格調高雅、²⁹意趣卓逸、一読して作者の才の非凡を思わせるものばかりである。しかし、袁俊は感嘆しながらも漠然と次のように感じていた。なるほど、作者の素質が第一流に属するものであることは疑いない。しかし、このままで、第一流の作品となるのには、どこか(非常に微妙な点において)欠けるところがあるのではないかと。

旧詩を吐き終わった李徴の声は、突然調子を変え、自らを嘲るがごとくに言った。

恥ずかしいことだが、今でも、こんなあさましい身となり果てた今でも、おれは、おれの詩集が長安風流人士の机の上に置かれているさまを、夢に見ることがあるのだ。岩窟の中に横たわって見る夢にだよ。嗤^{わら}つてくれ。詩人になりそなつて虎になつた哀れな男。(袁俊は昔の青年李徴の自嘲癖を思い出しながら、哀しく聞いていた。)そうだ。お笑い草ついでに、今の懐^{おも}いを即席の詩に述べてみようか。この虎の中に、まだ、かつての李徴が生きているしるしに。

²⁸産を破り 財産を失い。

²⁹意趣 ここでは、詩に盛り込まれた思い。

適宜、発問を置き、スムーズな読解につなげます。

問⑤ 「おれは、おれの詩集が……夢に見ることがあるのだ」とは、どういうことか。

³⁰長安 唐の都。現在の陝西省西安市。

読解をサポートする脚注を、効果的に配置しています。

袁俊はまた下吏に命じてこれを書き取らせた。その詩にいう。

偶³¹ 因^レ 狂^ニ 疾^ニ 成^ル 殊^ニ 類^ト
災 患 相 仍^レ 不^レ 可^レ 逃^ル
今 日 爪 牙 誰^レ 敢^テ 敵^ニ
当 時 声 跡 共^ニ 相 高^{カリキ}
我 為^レ 異 物^ト 蓬 茅^ノ 下^ニ
君 已^ニ 乘^{リテ} 輶^ニ 氣 勢 豪^{ナリ}
此 夕 溪 山 對^ニ 明 月^ニ
不^レ 成^ニ 長 嘯^ニ 但^レ 成^レ 嘯^ニ

偶狂疾に因つて殊類と成る
災患相仍つて逃るべからず
今日は爪牙誰か敢へて敵せんや
当時は声跡共に相高かりき
我は異物と為りて蓬茅の下にあれども
君は已に輶に乗りて氣勢豪なり
此の夕べ溪山明月に対し
長嘯を成さずして但だ嘯を成すのみ

³¹(漢詩の注)
狂疾 精神の病。
殊類 人間でないもの。
相仍 次々と重なつて。
声跡 世間の名声。
蓬茅 ヨモギとチガヤのこと。雑草の意。
輶 一、二頭の馬に引かせる物見車。当時、官吏が乗用した。
長嘯 声を長く伸ばして詩歌を吟ずること。
嘯 獣が短くほえ叫ぶこと。

時に、残月、光冷ややかに、白露は地にしげく、樹間を渡る冷風は既に暁の近きを告げていた。人々はもはや、事の奇異を忘れ、肅然として、この詩人の薄倖^{はつこう}を嘆じた。李徴の声は再び続ける。

なぜこんな運命になつたかわからぬと、先刻は言ったが、しかし、考えようによれば、思い当たるのが全然ないでもない。人間であつた時、おれは努めて人との交わりを避け

*語句

高雅 非凡 自嘲

各単元とも、各ジャンルに関連する複数の教材が配置されています。



中島敦 一九〇九(明治四二)年〜一九四二(昭和一七)年。小説家。東京都の生まれ。中国古典文学に親しむとともに、西洋の文学・哲学の影響も受けて、独自の作品世界を形作った。作品に「光と風と夢」「李陵」「名人伝」などがある。

課題 A

- 一 虎になる前の李徴はどのような人物だったか、その性格・生き方を中心にまとめてみよう。
- 二 李徴が、自分が虎になった理由について告白する内容を、次の表現に留意して整理してみよう。
 - ①理由もわからずに……生き物のさだめだ。(26・33~4)
 - ②ともに、我が臆病な自尊心と、尊大な羞恥心とのせいである。(30・6)
 - ③飢え凍えようとする妻子のことよりも、……こんな獣に身を墮とすのだ。(32・11~12)
- 三 袁修は李徴にとってどのような存在か、袁修の人柄や現在の境遇などに留意してまとめてみよう。
- 四 袁修は李徴の詩についてどのように考えているか、話し合ってみよう。
- 五 最後に李徴が「叢」を出て、「道の上に躍り出た」の

はなぜだろうか、話し合ってみよう。

課題 B

「山月記」は人間が「虎」に変身する小説である。変身をテーマにした小説には他にどのようなものがあるか、調べて発表してみよう。

漢字

貧窮 22	闇 23	搜索 23	翻す 24
醜悪 24	傍ら 25	無我夢中 25	残虐 26
肅然 29	臆病 30	刻苦 30	暴露 30
怠惰 30	懇ろ 33		危惧 30
			漏れる 24
			巧拙 28

★読書の扉 ↓ 416 ページ

少年という名前のメカ

松田青子 まつだ あおこ

少年という名前のメカが冒険の旅に出た。少年という名前のメカの記憶装置には、冒険に出ることがはじめからインプットされている。だから少年は旅に出る。少年と名付けられてはいるが、どこからどう見ても少年としか言いようのない見た目につくられてはいるが、性別ははっきりしない。だから、ここではただ少年と呼ぶことにする。

三日三晩歩き続けた少年は、ごんまりとした村にたどり着き、村の入り口にある、窓の向こうから暖かな光が漏れている一軒の家の戸を叩く。メカだから本当は疲れることはないのだが、なにぶんそうインプットされているため、腰に巻かれたエプロンで手をふきふき出てきたおかみさんに、少年は一夜の宿を求める。

おかみさんは少年を招き入れ、暖炉の脇のテーブルの前に少年を座らせる。暖炉の中では橙色の炎がパチパチと燃えている。おかみさんが温め直したスープをすすっている少年

課題 A には内容理解を踏まえた問いや話し合いの課題、課題 B には探究的な学びを設定しています。

「学びを広げる」には、別文章との読み比べや創作など、**言語活動を中心とした教材**が配置されています。



松田青子 一九七九(昭和五四)年。小説家・翻訳家。兵庫県の生まれ。話し言葉の調子を生かし、日常に寄り添いながらもそれを深く捉え直す視点を含んだ作品を発表している。作品に「スタッキング可能」「おばちゃんたちのいるところ」「持続可能な魂の利用」などがある。

課題 A

- 一 「今までの少年たちとはちよつと違うよ」(37・14)とあるが、老夫婦の「今までの少年たち」に対する思いをまとめてみよう。
- 二 「少年は細心の注意を払い、すべてを適度なバランスに保った」(38・8)とあるが、老夫婦との共同生活の中で少年はどのようにふるまったのか。整理してみよう。
- 三 「少年らしくない少年がいることがわかったわ」(41・3)とあるが、少女のいう「少年らしくない少年」とはどのようなものか。整理してみよう。
- 四 この小説のおもしろさはどこにあるか。「今日も少年は歩く……特許出願中」(41・12～13)の部分に留意して話し合ってみよう。

課題 B

「あなたのおかげで、少年らしくない少年がいることがわかったわ」(41・3)とあるが、「らしさ」とは何だろうか。具体例を挙げて話し合ってみよう。

漢字

瞬間	36	募る	36	無邪気	36	襲来	37
頬	37	旺盛	37	穏やか	38	露呈	40
							萎縮 40

★読書の扉↓416ページ

学びを広げる

小説を書き換える

「少年という名前のメカ」の主人公の設定を変え、もう一つの「○○という名前のメカ」の物語を作ってみよう。

①「少年という名前のメカ」の冒頭部分(35・1)にならって次の文の空欄を埋め、主人公の基本的な設定を決定しよう。

○○という名前のメカの記憶装置には、() () がはじめからインストールされている。だから○○は() ()。

- ② 主人公の設定をもとに、主人公にふさわしい物語の構想を練ろう。その際、次の点に留意しよう。
 - ・主人公は、いつ、どこで、どのような人物に出会うか。
 - ・そこでどのようなできごとに出会い、どのような会話が交わされるか。
 - ・主人公はどのように行動し、その行動を周囲の人々はどのように受け止めるか。
 - ・主人公はどのように人々と別れるか。
- ③ 五、六人のグループに分かれ、それぞれの「作品」を発表し合い、感想を交換しよう。
- ④ 感想交換を受けて、改めて自分の書いた「作品」を振り返り、創作活動を自己評価しよう。

単元の振り返り

- 小説の寓意について理解できたか
- 主人公の設定を変え、小説を書き換えることができたか
- さらに学ぶへの意欲や関心をもてたか



単元ごとに**振り返り項目を明示**。観点別評価にもつながります。

単元間には、教材内の具体表現をもとに学ぶ「文学を読むために」と、ジャンルによる読書紹介「広がる読書」の2つのコラムを配置しています。

語り手
象徴と寓話
筋(プロット)
台詞と科白
回想と手記
詩と詞
描写

文学を読むために
筋(プロット)

文学作品において、主要なできごとを一つ一つ配列のことを、筋(プロット)と呼びます。E・M・フォスターは、次のような例文によってプロットを説明しました。「王が死んで、それから王妃が死んだ。」がストーリーだとすると、「王が死んで、それから悲しみの余り王妃が死んだ。」がプロットである、と『小説の諸相』中野康司訳。

前者はできごとを時間順に並べて叙述しています。対して後者は、できごとを因果関係によってつないで説明しています。たとえば推理小説では、事件が起ると、なぜその事件が起こったのか、探偵が謎解きをします。できごとをそのような因果関係として整理しなおしたのがプロットだということになります。人は、しばしばできごとを物語化して把

握します。うまくいった時、悪い事が起こった時、それは自分が頑張ったからだ、雨が降ったせいだ、と私たちは何らかの原因を想定します。『山月記』の李徴は、自分の過去をなぜ自分は虎になったのかという物語として語ります。『舞姫』の「余」も、自分の性質を家族との関係に由来するものと捉えています。できごとを因果関係によってつなぐことは、私たちの認識の方法の一つであると言っているでしょう。

一方で、日本の近代文学には、起伏に富んだ筋のある作品を通俗的だとして低く見る傾向がありました。芥川龍之介は、晩年志賀直哉の『焚火』という短編小説を『話』らしい話のない小説」と形容し、純粹で詩に近いものとして称揚しました。これに対して谷崎潤一郎は、筋は小説という形式の持つ特権で、筋の組み立てによる「構造的美観」には芸術的価値があると反論しました。芥川と谷崎が交わした議論は、「小説の筋」論争と呼ばれています。

芥川の初期作品である『羅生門』では、

下人の心理があるできごとをきっかけに変化し、結末部での行動に至ります。一方、同じ作家の晩年の作品、たとえば『蟹気楼』や『爾車』では、主人公の不安な心境が描写されるだけで、小さなできごとはあっても、劇的な展開は起こりません。現代文学にも、保坂和志や堀江敏幸など、一見すると随筆のような、筋のない小説を書く作家がいます。また、吉田修一や角田光代など、登場人物の過去が物語を駆動する小説を得意とする作家もいます。

作家や作品のタイプによって、鋭敏な感覚に共振したり、何気ない日常の描写に吸い寄せられたり、また、張り巡らされた伏線の回収に感嘆したりと、読者の楽しみ方はさまざまです。小説だけでなく、漫画やアニメ、映画など、自分が好きな作品を思い浮かべて、それがどのような筋なのか、そもそも筋がある作品なのかどうか、考えてみましょう。

エッセイ
ミステリー
SF小説
翻訳小説
歴史と文学



SF小説

Science Fiction、略してS.F.。科学的な知識や情報を背景としてつくられた物語のことです。多くの場合、未知の世界と中心人物との遭遇が描かれます。

ライイ・ニーヴンの『リングワールド』では、地球から遠く離れた星系にある「リングワールド」という、太陽のまわりをつねに回転する指輪状の天体が舞台です。その指輪(リング)の内側に広大な土地が広がって生物がすんでいます。シリーズ最初の巻では中心人物たちが太陽系を離れてリングワールドの世界にたどり着くまでを、続刊ではその世界のありようを歴史も含めて克明に描きます。ニーヴンの短編集『無常の月』では『リングワールド』に登場する人物や世界の来歴が少しずつ明かされます。未知の世界としての宇宙が舞台になることは多いですが、最新のテクノロジーのもの

たらず近未来の世界が描かれることもありえます。マイクル・クライトン『ジュラシック・パーク』、『NEXT』、『マイクロ・ワールド』は、それぞれ、ゲノム編集技術、ナノテクノロジー、極小化技術と生物多様性のそれぞれが実現した世界で何が起こるかということが、サスペンスたっぷりに描かれています。『ジュラシック・パーク』で描かれた「遺伝子操作」によって「老化」が克服された世界を描いた小説に山田宗樹『百年法』があります。古くは『ガリヴァー旅行記』に「不死の国」の人々の不幸が描かれますが、『百年法』はまさしくそれが実現した社会で起こりうることを描き出しています。そのようなディストピア(暗黒世界)をテーマとすることも、SF小説には多くあります。レイ・ブラッドベリ『華氏四三二度』やジョージ・オーウェル『一九八四年』がそれです。理想郷ではなく、その逆の望まれない世界を描くことよって現代に警鐘を鳴らします。

また、SF小説では「タイムトラベル」がよく扱われます。ロバート・ハインラインの『夏への扉』では、主人公が三十年後の世界と現在を行き来する時間旅行の技術を駆使し、敵対する人物たちの妨害を乗り越えて、三十年の間のどこかの年に行方不明になった愛猫と恋人を取り戻します。この「タイムトラベル」という要素は、『ドラえもん』では頻繁にあらわれます。そういう意味で『ドラえもん』はSFであるということができるといえます。実際、瀬名秀明による『のび太と鉄人兵団』や辻村深月による『のび太の月面着陸隊』のようなノベライゼーション(小説化)作品を読むと、藤子不二雄の描き出した世界がいかにSF小説と共通しているかがわかります。漫画アニメ、小説の『ドラえもん』を比較し、表現の違いを考えてみるのもおもしろいでしょう。

文学に関連する評論教材や、他時代・他ジャンルの関連文章など、**文学の学びを広げる題材**を豊富に用意しています。

小説はどう読めばいいのか？

——太宰治『斜陽』の語り口

阿部公彦

小説というのはどうやって読むものでしょう。小説に読み方があるなどと驚く人もいるかもしれませんが。しかし、実は「どうやって」を意識すると、小説のほんとうにおいしい部分をとらえることができます。というのも、「どうやって読むか」を足がかりにすると、小説が「どうやって作られているか」が見えてくるからです。

はじめの一步として意識するのは、次のようなことです。自分は今、小説の内容をこう感じ取ったけれど、それはなぜなのか。自分の印象や理解はどのように形作られたのか。わかりにくい部分はあったか。そのことで受け取り方に違いが生じたか。こうしたプロセスを意識することで、小説がどんな仕掛けでできているかがわかってきます。

そこで助けになるのは、一字一句読むという心構えです。通常の読書では、私たちは案外、文章をきちんと読まないものです。内容に引き込まれるほど、読むスピードはあがり、

小説はどう読めばいいのか？ ——太宰治『斜陽』の語り口 203

課題

- 一 「森鷗外の『舞姫』(明治二三年)も……場面に応じて異質な文体が巧みに使い分けられている」(409上・558)とあるが、筆者の指摘を『舞姫』の本文(359~391)を読んで確かめてみよう。
- 二 次の①②の文章を読み、江戸後期から明治期までの小説の文体の変遷について気づいたことを発表しよう。

① 曲亭馬琴『南総里見八犬伝』

天保十三(一八四二)年完結

信乃も浅痕を負たりければ。鮮血を啜て咽喉を潤し。屋根より屋根をうち登りて。脱去るべき方を描るに。要害の物見とおぼしき。三層の楼閣ありけり。これは是。遠見の為に建られて。芳流閣と名づけたり。信乃は脱るゝ路を見んとて。辛じて攀登れば。城溝は渺々たる大河にして。流を閣の下に引たる。水際に快船を繋ぎたり。こは俗に坂東太郎と唱へて。八州第一番の大河たり。その下流は葛飾なる。行徳の

浦曲より。巨海に朝する咽喉たり。

(出典 国会図書館所蔵『南総里見八犬伝 第三輯巻五』)

② 東海散士『佳人之奇遇』

明治十八(一八八五)年

紅蓮杯ヲ拳ゲ散士ニ謂テ曰ク、好作郎君更ニ一杯ヲ重ネヨト。散士辞セズ、之ヲ受ケ、笑テ范卿ニ謂テ曰ク、僕ノ詩尤モ悪ク尤モ後ニ成ル、罰杯甘ズル所ナリト。紅蓮ガ曰ク、郎君ノ至情自ラ詩賦ニ顕ル、故ニ之ヲ賀スルノミト。散士敢テ其故ヲ問フ。紅蓮微笑シテ壁上ノ扁額ヲ指シテ曰ク、幽蘭ノ清香能ク鳳皇ヲ引ケドモ、紅蘭ハ空ク淡影ノ中ニ鎖サレテ顧ミルモノナシト。

* 紅蓮：アイルランド独立運動に尽力するイギリス人女性。
* 散士：東海散士、作者自身。 * 范卿：明朝の遺臣。

(出典『明治文学全集 6』一九六七年)

③ 坪内逍遙『当世書生気質』

明治十八(一八八五)年

小町田ハやう／＼に頭をあげ(小)然う君にいはれて見ると。実に面目ない次第だけれど。実にいろ／＼

「戯曲」の言葉を扱った単元では、劇作家による対談や脚本(台詞)を教材として採録しています。



「書く女」2016年公演の舞台より(作・演出 永井愛 主演 黒木華)

戯曲の中の「対話」

対談
井上ひさし
平田オリザ

芝居のせりふと日常会話の違い

井上 きょうのテーマは「対話」でしたね。僕から始めていいですか。

まず、戯曲のなかの「対話」に関して、一般の方々もつとも誤解しているのは、日常会話との区別じゃないかと思えます。戯曲に出てくる会話や対話などの劇言語は、日常会話を正確に写したものだと思われています。もつとわかりやすく言えば、芝居のなかのせりふは、日常会話で書かれていると思われている方が圧倒的に多い。

これは、明らかに間違いだということを最初に言っておかないといけませんね。劇作家のなかにもそう思っている人が時々いたりして困りますけど(笑)。

平田 そうですね。僕なんかは日常会話で書いているというふうには、いちばん誤解されるタイプです。「平田は日常会話を書いているつもりでいるかもしれないけれども、日常会話

132

桃水 それでよし。私は半井桃子さん、あなたは樋口夏之助君というわけだ。

夏子、吹き出す。桃水も笑う。

桃水 打ち解けて、何でも相談してください。心の限り、お力になりますよ。

夏子 何でもつたない……(と、涙ぐむ)

桃水 いや、私にも貧乏時代がありましたね。我が家は代々、²¹対馬藩の御殿医をつとめておりましたが、²²対馬藩が朝鮮との外交を任されていたため、父は²³釜山で医者をしていました。しかし、明治維新になってから藩の財政は窮乏し、まだ子供の私も給仕のようになつた。逃げ出すように日本に帰ったのは、やつと十五のときですよ。

夏子 まあ、そんなご苦労が……

桃水 働きながら東京の学校を出ましたが、仕事がなかな

巻末付録には、関連読書紹介や、作品読解の参考となる写真・図版などを掲載しています。

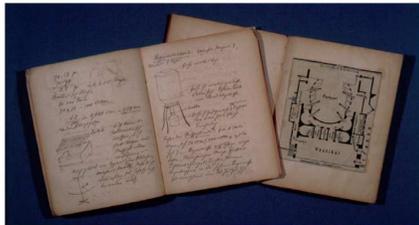
「舞姫」(359ページ)の風景



森鷗外(陸軍省官房室にて、明治41年)



クロステル街のマリエン教会



ドイツ留学中の鷗外自筆ノート



鷗外が滞在したベルリンの下宿跡

1900年頃の
ウンテル・デン・リンデン

読書の扉

読書活動を広げる手がかりとして、教材と関連のある書籍を選び、紹介した。



第一部 小説の言葉・詩の言葉

◆夜中の汽笛について、あるいは物語の効用について
◆詩はいつでも近いところにある



夜の中もささる
村上春樹文
安西水丸絵

日常の場面に不条理を溶け込ませたショートショート。ユニークな挿画とともに、不思議でシュールな世界へと読者を誘う。



蜂飼耳詩集
ほしのあや
蜂飼耳

中原中也賞を受賞した詩人のほぼ全詩を取りめる。古典にも精通し日本語の調べやリズムを生かした現代詩の世界が味わえる。



文学国語入門
大塚英志

「他者」と「社会」と関わって生きるための「ことば」を身につけること。それは、まさに近代文学が一貫して問い続けてきたことだ。



今を生きるための現代詩
渡邊十絲子

解釈することをいったん忘れて詩を読み、理解しようとしても理解しきれない余白の存在を認めることで、人は謙虚になる。



ガラン版 千一夜物語(全6冊)
西尾哲夫訳

シャフリヤール王は、妻の語る物語のおもしろさに自らの錠を破る。「アラビアンナイト」が大流行する契機となったガラン版。

二 小説(一)

◆山月記
◆少年という名前のメカ



李陵・山月記
中島敦

漢軍を率いて征伐に向かったものの敗退し、匈奴の捕虜となった「李陵」。中国の古典に材をとった表題作のほか、「弟子」「名人伝」を収録。



カフカ・コレク ション 変身
フランツ・カフカ
池内紀訳

朝、目覚めると、「自分が途方もない虫に変わっているのに気がついた。」——心は人間のまま、姿だけ変わってしまった男の心理を描く。



聊齋志異(上・下)
蒲松齡
立間祥介編訳

六朝や唐代の志怪・伝奇小説の流れをくむ短編小説集。幽鬼や神、不思議な生き物たちの巻き起こす事件を描く。上下巻で九十二編収録。



ワイルドフラワーの見えない一年
松田青子

わずか数行の作品やタイトルしかない作品も含む超短編集。著者の鋭い観察眼と独特な発想から生み出される五十の不思議な世界。



ここはボツコニア
宮部みゆき

社会派ミステリーから冒険小説まで幅広く手がける著者によるゲームファンタジー。そこかしこ古今の名作ゲームの設定とパロディが満載。